

公立大学法人青森公立大学
平成30年度業務実績評価結果への対応

□ 全体評価（組織、業務運営等に係る改善事項等）

学生の受入に関して、大学院課程については、入学定員を変更するとともに、大学院改革を行っていくとしたところであるが、今後はその成果が現れるよう取組を行うことを求める。

職員を対象とする業績評価を試行したところであるが、その試行結果を踏まえて早期に本格的に実施することを求める。

教員を対象とする人事評価の試行が実施されていないことから、一層の検討と取組を求める。

受託研究・受託事業等による外部研究資金については、引続き獲得に努めることを求める。

□ これまでの取組と今後の対応

| | | |
|---|---------|---|
| 1 | 改善事項等 | 学生の受入に関して、大学院課程については、入学定員を変更するとともに、大学院改革を行っていくとしたところであるが、今後はその成果が現れるよう取組を行うことを求める。 |
| | これまでの取組 | 学内外の環境変化に対応するため、入学定員を見直し、博士前期課程の入学定員を8名から4名へ変更した。 また、大学院改革を行うため、学内にプロジェクトチームを組織し、調査・研究を進め、最終報告を踏まえた大学院改革案を、研究科教授会で意見聴取した上で審議し承認された。 |
| | 今後の対応 | 大学院活性化プロジェクトとして、新たなプログラム等を設定するための具体的な検討を進め、詳細が決定次第順次、効果的な広報を行っていく。 具体的には、①経営・経済学の分野において社会的ニーズがある「データ分析」関連プログラムの設定等をする、②キャリア形成に活かせるよう「履修証明制度」による本学大学院独自の資格を付与する、③PRチラシ作成・配付及び本学HPへの掲載による周知活動をする（特にニーズが高い企業に対してのPR活動）、などである。 |

| | | |
|---|---------|--|
| 2 | 改善事項等 | 職員を対象とする業績評価を試行したところであるが、その試行結果を踏まえて早期に本格的に実施することを求める。 |
| | これまでの取組 | 既の実施している能力評価のほか、市の制度に準拠した業績評価の試行を実施した。 |
| | 今後の対応 | 平成30年度に実施した試行結果を基に、実施方法等の検証をしたうえで、令和元年度の人事評価（能力・業績）について、試行を実施する。本格実施については、試行の検証を踏まえた令和2年度に実施する試行を最終試行とし、その検証も踏まえて、第3期中期計画から、本格実施することとしている。 |

| | | |
|---|---------|---|
| 3 | 改善事項等 | 教員を対象とする人事評価の試行が実施されていないことから、一層の検討と取組を求める。 |
| | これまでの取組 | 教員の人事評価については、教員の理解を得ながら十分検討した上で制度設計をすることとし、相応の時間を要するため、第2期中期計画期間内の試行の実施に向け、制度の検討を行ってきた。 |
| | 今後の対応 | 教員の人事評価について、他大学の調査を行ったうえで、評価基準や評価項目、評価手順等について、教員の理解を得ながら令和元年度中に試行案を作成し、第2期中期計画期間最終の令和2年度に試行を実施するとともに、その検証を踏まえ、第3期中期計画期間内に、本格実施できるよう検証を継続していく。 |

| | | |
|---|---------|---|
| 4 | 改善事項等 | 受託研究・受託事業等による外部研究資金については、引続き獲得に努めることを求める。 |
| | これまでの取組 | 外部研究資金の獲得増加のため、情報収集・提供を随時行った。 具体的には、科学研究費助成事業・青森学術文化振興財団・民間の助成金・受託研究・受託事業などについて情報収集するとともに、積極的に応募するよう教員等へ案内（メールや学内掲示）した。 |
| | 今後の対応 | 外部研究資金の獲得増加のため、引き続き、科学研究費助成事業・青森学術文化振興財団・民間の助成金・受託研究・受託事業などについて情報収集するとともに、積極的に応募するよう教員等へ案内する。 また、令和元年度においては、2件の受託研究及び受託事業を受託する見込みとなっている。 |